

マツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 11。草地性の植物で、愛知県では特に低山地で極度に減少している。

【形態】

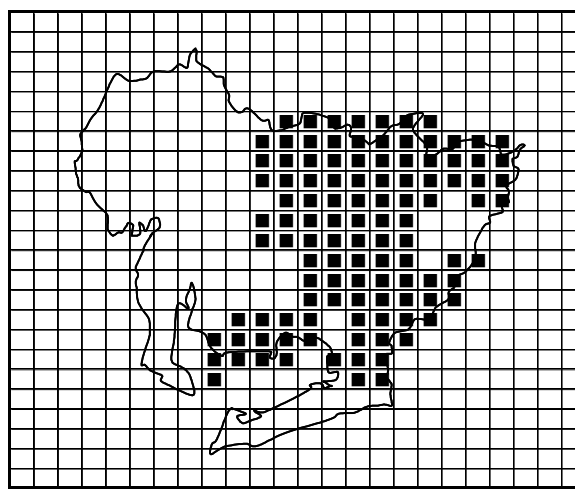
多年生草本。茎は分枝し、高さ 60~90cm になる。根出葉は花時に枯れる。茎葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は長さ 5~10cm、下部や中部の葉の葉身は羽裂し、裂片はさらに分かれて、終裂片は鈍頭となる。花期は 8~10 月、花は青紫色で、多数が集まって直径 3~4cm の頭花となり、基部に線形の総苞片がつく。頭花周辺部の小花は花冠が 5 裂し、外側の裂片は大きく伸び、中心部の小花の花冠は筒状で等形に 5 裂する。果時の頭花は球形で、直径約 1.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 67265, 1993-9-2)、4 津具 (芹沢 67388, 1993-9-3)、6 設楽西部 (芹沢 57045, 1990-9-13)、9 鳳来南部 (芹沢 60128, 1991-8-29)、10 鳳来北西部 (小林 58030, 1995-9-15)、11 作手 (小林 53522, 1994-9-4)、12 新城 (瀧崎吉伸 32330, 2016-10-29)、14 蒲郡 (小林 58777, 1995-11-12)、15 豊橋北部 (芹沢 89692, 2014-9-28)。西：5 稲武 (芹沢 89455, 2014-8-19)、19 旭 (芹沢 56545, 1990-8-25)、20 足助 (芹沢・水野 102, 1984-9-26)、21 下山 (芹沢 89631, 2014-9-18)、22 小原 (塚本威彦 1653, 1995-9-9)、23 藤岡 (塚本威彦 320, 1992-8-18)、24 豊田東部 (芹沢 59286, 1991-7-26)、28 額田 (芹沢 87757, 2012-8-10)、36 西尾南部 (芹沢 71164, 1994-9-24)。このほか 13 豊川 (一宮村本宮山, 鳥居喜一 22220, 1931-8-26, HNSM)、16 豊橋南部 (寺沢町, 小林 23333, 1981-10-18)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 805, 1958-7-31) で採集された標本もある。尾張では確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県の場合、山地では尾根などの草地、低標高地では超塩基性岩地に生育している。中程度の標高では、谷戸田周辺の里草地 (いわゆるボタ) に生育していることが多かった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては山地から低標高の丘陵地まで連続的に点在していたが、草地の減少に伴い著しく減少している。特に中程度の標高の場所では、ほとんど絶滅状態である。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の里草地は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、草地性植物が集中して生育する超塩基性岩地も、次第に森林化が進行している。草刈りや火入れによって、草地状態を維持していく必要がある。

【特記事項】

愛知県では、低地のものほど頭花が小さくなる傾向がある。ミカワマツムシソウとして区別する人もいるが、変異は連続的である。ただし、最近では東三河南部の超塩基性岩地以外は低山地でほとんど絶滅状態なので、不連続のように見えてしまう。超塩基性岩地に生育するものは特に頭花が小さく、中には周辺部の舌状花が全くないものもある。

【関連文献】

保草本 I p.100, 平草本 III p.148, 平新版 5 p.424.